

主要産地における令和5年産水稻の生育状況等について 第9報 (令和5年7月20日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和5年7月20日)

道府県	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・診断・気象等関係公表資料 (自治体・気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	区分	平年、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育)	【生育状況 (7月1日現在)】 (全連) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政課 7月6日付) (空知) 生育はややく進んでいる。(空知総合振興局 7月6日付) (石狩) 高温多湿により、分げつの発生が経年となり生育が進んだ。(石狩振興局 7月6日付) (後志) 遅速は早3日。(後志総合振興局 7月6日付) (胆振) 高温・多湿で生育が進んだため、生育はやや早い。(胆振総合振興局 7月6日付) (日高) 生育は概ね平年並に推移している。(日高振興局 7月6日付) (渡島) 生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 7月6日付) (増山) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(増山振興局 7月6日付) (上川) 生育は平年並である。(上川総合振興局 7月6日付) (留萌) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(留萌振興局 7月6日付) (オホーツク) 好天により、生育は平年よりやや早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月6日付)	【全国】春からエルニーニョ現象が続いているとみられる。その後、秋にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い(90%)。(気象庁 7月10日付) 【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】北海道地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台) 北海道地方は7月26日頃からかなりの高温。(札幌管区気象台)	・「なつぼうし」及び「ゆめびかり」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 令和5年3月15日) (出典資料は以下同じ)
		【生育状況 (7月14日時点)】 ・県全体の草丈は73.7cm (前年比98)、㎡当たり茎数は471本 (前年比104)、葉色値は38.3 (前年差+0.1) で順調に生育している。 ・幼穂形成期は7月7日より前年より2日早まっており、出穂期は7月末～8月初めとなる見込み。 (青森県「農なび青森」7月20日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「まっしぐら」及び「つがねマシ」を中心とする品種構成となっている。
岩手	(生育)	【7月14日現在】生育概況「ひとめぼれ」「あきたこまち」「銀河のしずく」「いわてっこ」 ・草丈は、平年並～長い (平年差+1.6～+6.2cm)。 ・茎数は、平年並～多い (平年比 94～133%)。 ・葉色値は、ほぼ平年並 (平年差+0.2～+0.4)。 ・葉色 (SPAD値) は、平年並～低い (平年差-0.8～-2.5)。 ・各品種とも概ね平年並に幼穂形成期に達している (平年差-1～±0 日)。 (岩手県農業研究センター 7月18日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。青のオリジナル種である「関河のしずく」が、耐熱性・耐病性に優れていることから増加傾向となっている。
		【7月10日調査】 (互 理) アメダスの気象を用いた予測では、県平均の出穂時期 (5月12日) における「ひとめぼれ」の出穂期は8月1日頃。(宮城県農業改良普及センター 7月11日付) (仙 台) 「ひとめぼれ」と「ササニシキ」は幼穂形成期に入った。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日付) (栗 原) 出穂時期は7月31日頃と予測される。(平年差2日)。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月11日付) (紫 原) 「ひとめぼれ」は、草丈と葉数は平年並、葉色は淡くなっている。茎数は、平年と比べ少ないものの、移植栽培の生育量の目安 (7月10日頃) 470～530 本/m ² の範囲内となっている。「たてまぎ」、「金のいぶき」、「朝えみのり」も幼穂形成期に達した。(宮城県紫原農業改良普及センター 7月12日付) (石 巻) 幼穂形成期は7月4～9日頃、平年より草丈は長く、茎数は少ない。出穂は平年より3日早まる見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月11日付) (気仙沼) 管内の生育調査地の生育は、草丈及び㎡当たり茎数が平年並から上回っている。葉色値が平年並～やや淡くなっている。幼穂の形成は平年より早く、生育が早い品種では7月20日頃～幼穂形成期を迎えたと考えられる。管内生育調査地における平年の出穂期は8月4日だが、本年度の幼穂形成状況から、生育が早い品種では7月27～28日頃に収穫を迎えたと予想される。ただし、今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することもある。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月12日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
宮城	(生育)	【7月10日現在】 ・古川農業試験場の「ひとめぼれ」では、草丈は68.2cm (平年比113%)、1㎡当たりの茎数は665本 (平年比114%)、葉数は10.9枚 (平年並+0.6枚) となっており、平年と比較して生育はややく進んでいる。 ・幼穂長は2.0cm (平年並+0.3cm) となっており、7月7日に幼穂形成期に達したとみられる。(宮城県 7月11日付) 【7月10日調査】 (互 理) アメダスの気象を用いた予測では、県平均の出穂時期 (5月12日) における「ひとめぼれ」の出穂期は8月1日頃。(宮城県農業改良普及センター 7月11日付) (仙 台) 「ひとめぼれ」と「ササニシキ」は幼穂形成期に入った。(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日付) (栗 原) 出穂時期は7月31日頃と予測される。(平年差2日)。(宮城県栗原農業改良普及センター 7月11日付) (紫 原) 「ひとめぼれ」は、草丈と葉数は平年並、葉色は淡くなっている。茎数は、平年と比べ少ないものの、移植栽培の生育量の目安 (7月10日頃) 470～530 本/m ² の範囲内となっている。「たてまぎ」、「金のいぶき」、「朝えみのり」も幼穂形成期に達した。(宮城県紫原農業改良普及センター 7月12日付) (石 巻) 幼穂形成期は7月4～9日頃、平年より草丈は長く、茎数は少ない。出穂は平年より3日早まる見込み。(宮城県石巻農業改良普及センター 7月11日付) (気仙沼) 管内の生育調査地の生育は、草丈及び㎡当たり茎数が平年並から上回っている。葉色値が平年並～やや淡くなっている。幼穂の形成は平年より早く、生育が早い品種では7月20日頃～幼穂形成期を迎えたと考えられる。管内生育調査地における平年の出穂期は8月4日だが、本年度の幼穂形成状況から、生育が早い品種では7月27～28日頃に収穫を迎えたと予想される。ただし、今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することもある。(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月12日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。
		【7月10日調査】 (秋 田) 多くの品種で幼穂形成期に入っている。(7月14日付) (雄 勝) 7月14日現在の定点調査 (あきたこまち66所) 結果は、草丈はやや平年並からやや低めで葉数と葉色は平年並に推移している。幼穂形成期は7月12日頃と見込まれ、前年並に早いことから、茎数は平年よりやや少なくなっている。(7月14日付) (仙 北) 7月14日の定点調査結果では、草丈がやや長く、茎数は回復傾向ですがやや少なくなった。葉色はややく濃く、多くの地点で幼穂が確認されている。(7月14日付) (山 本) 田植えが早かった品種では幼穂形成期を迎えている。(7月14日付) (秋 田) (7月5日調査) 「あきたこまち」の生育は草丈が63.4cm (平年比106%)、茎数が494本/㎡ (同比102%)、葉数が11.5葉 (同差+0.1葉)、SPAD値が27.9 (同比102%) となっている。(7月14日付) (秋田県農政課)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。
山形	(生育)	【7月10日現在】 (北村山) (7月10日現在) 【全般的な傾向】 (平年比) 草丈：概ね並、茎数：やや少ない～並、葉数：並、葉色：やや濃い。(村山総合支庁北山農業技術普及課 7月11日付) (鶴岡田川) (7月10日現在) ・茎数はやや少ない。葉数は並、葉色はややく濃い～やや薄い。特に茎数は依然として圃場間差が見られる。出穂期は平年よりやや早まる見込み。(山形県鶴岡総合支庁農業技術普及課 7月12日付) (西村山) ・出穂は平年並～やや早い予想。(西村山農業技術普及課 7月11日付) (西置賜) ・7月10日現在の生育診断圃の生育は、草丈は平年並～長く、茎数は品種による差が大きく、葉数は平年並～やや少なく、葉色は並～やや淡い状況。今後葉色が濃くなる傾向と予想されていることから、出穂期は平年より早まる予想。(西置賜農業技術普及課 7月11日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「えはぬき」及び「つがねマシ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶさ」が増加しており、新米種への転換が増加していることから出穂はややく低下したものの、まだ増加が見込まれる。
		【7月10日調査】 (福島県農林水産部農業振興課 7月10日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「コンヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶさ」が増加しており、新米種への転換が増加していることから出穂はややく低下したものの、まだ増加が見込まれる。
茨城	(生育)	【7月10日現在、水戸市】対平年遅速 (5月1日移植) ・「あきたこまち」3日早い、「ふくまるS」平年並、「コンヒカリ」平年並。 (5月10日移植) 「コンヒカリ」平年並。 (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月11日付) 【7月18日現在、龍ヶ崎市】対平年遅速 (4月27日移植) ・「あきたこまち」1日早い (出穂期)、「ふくまるS」3日早い (出穂期)、「コンヒカリ」6日早い (出穂期)。 (5月8日移植) 「コンヒカリ」平年並 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月19日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は、ほぼ平年並の見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「コンヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年、多様な収量への期待が強い品種が中心となっている。
		【7月10日調査】 (栃木県農政部経営技術課 7月6日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「コンヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
栃木	(生育)	【生育概況】(7月6日調査) ・草丈は前調査より差は少なくなったが全般的に、前年より長い傾向。 ・早稲コシヒカリの茎数はバツキが大きいが、前年並～やや多い。葉色は前年並み。 ・早稲とちぎの星の茎数はやや少ない。葉色は前年並み。 ・幼穂長については各地でバラツキしており、差は認められる。幼穂長から推定した出穂は3～4日程度前年より進んでいる。 【コシヒカリ・前年比】草丈102% 茎数104% 葉色±0.0 【ちぎの星】草丈102% 茎数93% 葉色-0.1 【普通種とちぎの星】5月種 草丈96% 茎数103% 葉色+0.4 葉色-0.5 6月種 草丈102% 茎数73% 葉色+0.3 葉色-0.8 (栃木県農政部経営技術課 7月6日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「コンヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。
		【7月10日調査】 (栃木県農政部経営技術課 7月6日付)	【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台) 【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並が高い見込み。降水量は、平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台) 東北太平洋側は7月26日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)	・「コンヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちぎの星」が増加傾向にある。

<p>干 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>・4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月22日頃(平年より1日早い)、「陸すけ」は6月22日頃(平年並)に幼穂形成期を迎えている。</p> <p>・また、5月1日に移植した「コシヒカリ」は6月28日頃(平年より1日遅い)から幼穂形成期となる。</p> <p>(千葉県 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、平年並か多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月斑点米カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさごがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっており、令和2年産から新品種「陸すけ」の本格栽培が開始</p>
<p>新 潟</p> <p>【7月10日現在】</p> <p>(県内全域の生育状況)</p> <p>・「コシヒカリ」では指標値(生育のめやす)に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の生育状況だが、地域差が見られる。</p> <p>・「コシヒカリ」は指標値に比べ草丈「やや長い」、茎数及び葉数の進み、葉色は「並」の生育状況だが、地域差が見られる。</p> <p>・「新しいふさ」では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」状況。 (新潟県農林水産部 7月11日付)</p> <p>(村 上) (普及センター調査係)</p> <p>・草丈:指標値109% (やや長い)、茎数:97% (並)、葉数:指標値+0.3葉 (並)。(村上農業普及指導センター 7月12日付)</p> <p>(新 高)</p> <p>・「コシヒカリ」は指標値に比べ草丈「やや長い」、茎数「やや多」、葉数「やや少」、葉色「やや濃い」。(新潟県農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(長 岡)</p> <p>・「コシヒカリ」は指標値に比べ草丈「やや長い」、茎数「やや多」、葉数「やや少」、葉色「やや濃い」。(長岡県農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(魚 沼)</p> <p>・調査結果では、草丈が長く、葉色がやや濃いめの、倒伏の可能性が懸念される。(魚沼県農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(南魚沼) (管内全体)</p> <p>・草丈:並、やや長い、茎数:並、葉数:並、葉色:やや濃い(ほぼ同程度あり)。(南魚沼農業普及指導センター 7月11日付)</p> <p>(十日町)</p> <p>・「コシヒカリ」生育調査係の生育)</p> <p>・草丈「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「やや濃い」だが、ほぼ同程度大きい。(十日町農業普及指導センター他 7月11日付)</p> <p>(上 越) (対生育指標値)</p> <p>・「コシヒカリ」草丈:やや長い、茎数:並、葉数:並、葉色:並、「新しいふさ」草丈:やや長い、茎数:並、葉数:並、葉色:濃い。</p> <p>・上越農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(糸魚川)</p> <p>・調査結果は平均)</p> <p>・草丈はやや短、茎数は並、葉色は並となっている。(糸魚川農業普及指導センター 7月10日付)</p> <p>(佐 野)「コシヒカリ」生育状況(調査対象平均、移植日平均5月9日)</p> <p>・草丈(茎)数(やや多)葉数(並)葉色(並、パラウキなど)。(佐野農業普及指導センター 7月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「新しいふさ」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきんづめ」「つばきめり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では稲作(新穀)の作付拡大を推進している。</p>
<p>富 山</p> <p>【7月18日現在】(生育状況)</p> <p>・「コシヒカリ」平年に比べ、草丈、葉色、葉数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんたかく」5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月19日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんこもり」平年に比べ、草丈、葉色、葉数は並、葉色は並である。幼穂形成期は、平年に比べ1日遅い7月13日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日遅い8月4日頃と見込まれる。</p> <p>・「富山富」近年に比べ、草丈、葉数、葉数、葉色は並であった。幼穂形成期は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より1日早い8月3日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県 7月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高収量品種「ゆきんづめ」及び「てんたかく」が増加傾向にある。また、県では稲作(新穀)の作付拡大を推進している。</p>
<p>石 川</p> <p>【6月8日現在】</p> <p>(草丈)</p> <p>・「コシヒカリ」:平年比85～134% (県平均107%、加賀:104%、能登:110%) 平年並～長く、前年に比べてやや長い。</p> <p>・「ゆめみづほ」:平年比90～121% (県平均108%、加賀:105%、能登:112%) 平年に比べてやや長い～長く、前年に比べて長い。</p> <p>・「ひやくまん丸」:平年比89～129% (県平均108%、加賀:112%、能登:103%) 近年並～長く、前年に比べてやや長い～長い。</p> <p>(葉数)</p> <p>・「コシヒカリ」:平年比76～159% (県平均104% 加賀:105%、能登101%) 平年及び前年並。</p> <p>・「ゆめみづほ」:平年比84～106% (県平均111%、加賀:104%、能登128%) 平年及び前年に比べて並～多い。</p> <p>・「ひやくまん丸」:平年比72～189% (県平均114%、加賀:105%、能登129%) 近年及び前年に比べて並～多い。</p> <p>(葉齢)</p> <p>・葉齢推定は、「コシヒカリ」は平年及び前年並。「ゆめみづほ」も平年及び前年並。「ひやくまん丸」は近年及び前年と比べ2日程度早い。</p> <p>(石川県農林総合研究センター農業試験場 6月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成である。なお、稲作(新穀)の作付拡大を推進している。</p>
<p>福 井</p> <p>【7月12日調査】</p> <p>「ハナエゼン」</p> <p>・出穂期は平年より3日程度早く、早く地域で7月11日頃、県全体では7月12～16日となる見込み。</p> <p>「いらほまれ」「コシヒカリ」</p> <p>・農業試験場の移植後の幼穂形成期は平年並となった。</p> <p>(水田農業レバレッジ委員会技術普及部会 7月14日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエゼン」を中心とする品種構成である。なお、稲作(新穀)の作付拡大を推進している。</p>
<p>長 野</p> <p>【標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況 移植後50日(きらりん、ゆめしなの、あきたこまち)】</p> <p>・移植後50日の生育は引き続き引き続き前進傾向である。「きらりん」では、止ま(第11～12葉)抽出が終了している。幼穂形成期は「きらりん」で平年より3日早く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年並となっている。</p> <p>(長野県農業試験場 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、平年並か多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成である。近年、オリジナル品種「あきたこまち」の導入を推進している。</p>
<p>滋 賀</p> <p>【水稲生育調査(7月10日時点)による】</p> <p>・作況調査(5月10日移植)では、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とも、草丈は平年並、茎数は平年より少ない。葉色は「みずかがみ」では平年並、「コシヒカリ」では平年よりやや薄い。</p> <p>・幼穂形成期は、「みずかがみ」では6月30日と平年より1日遅く、「コシヒカリ」では7月5日と平年より2日遅く、出穂期は「みずかがみ」では7月23日頃と遅い見込み。</p> <p>・県内全域では、移植日や播種条件による生育に差は認められるものの、概ね平年並に幼穂形成期を迎えている。</p> <p>(滋賀県農業技術普及センター 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>7月20日頃梅雨明け。(気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」「本玉ヒカリ」「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高収量品種に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>兵 庫</p> <p>【6月28日時点】</p> <p>(県 北)「コシヒカリ」の草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉数の進捗はやや早い。遅穂では、草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉数の進捗はやや早い。</p> <p>(生育) (県北以外)葉数の進捗は平年並～やや早く、草丈は平年並。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>7月20日頃梅雨明け。(気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「本玉ヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きむむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
<p>岡 山</p> <p>・播種品種の生育は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県 6月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は7月27日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>7月20日頃梅雨明け。(気象庁)</p>	<p>・「アケボノ」、「きむむすめ」、「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」及び「きむむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きむむすめ」が増加傾向となっている。</p>
<p>広 島</p> <p>【7月10日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター農場(東広島市八本松町)</p> <p>(内)は平年並</p> <p>・「コシヒカリ」(密植) 草丈:71.7(71.4)cm、茎数:598(491)本/㎡、葉色(SPAD値)42.0(37.1)、葉齢10.3(10.9)</p> <p>・「あささかり」(密植) 草丈:62.5(61.8)cm、茎数:622(533)本/㎡、葉色(SPAD値)40.7(36.8)、葉齢11.4(11.3)</p> <p>・「ヒノヒカリ」(密植) 草丈:62.6(61.4)cm、茎数:467(509)本/㎡、葉色(SPAD値)40.1(36.3)、葉齢9.9(10.8)</p> <p>・「恵の予感」(普通植) 草丈:65.6cm、茎数:682本/㎡、葉色(SPAD値)39.3、葉齢11.7</p> <p>・「あささかり」(普通植) 草丈:59.4cm、茎数:497本/㎡、葉色(SPAD値)42.6、葉齢11.3</p> <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 7月12日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は7月27日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>7月20日頃梅雨明け。(気象庁)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あささかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年産「ひめかき」の生育状況（7月10日現在）】</p> <p>（5月22日移植 7月10日調査） ・草丈(cm) 61.4、茎数(本/㎡) 362、一株あたり茎数(本/株) 23.9、葉色(SPAD値) 32.8</p> <p>（6月1日移植 7月10日調査） ・草丈(cm) 54.3、茎数(本/㎡) 323、一株あたり茎数(本/株) 21.3、葉色(SPAD値) 37.5</p> <p>（6月14日移植 7月7日調査） ・草丈(cm) 38.4、茎数(本/㎡) 241、一株あたり茎数(本/株) 15.9、葉色(SPAD値) 40.3</p> <p>(愛媛県農林水産研究所 7月13日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月27日03時、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、こま葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。</p>
高 知	<p>【6月月報】</p> <p>（早期稲） 種まき～出穂期、時期：並、生育：並 ・6月に入って雨の日が多いが、草丈はほぼ平年並、分けつ数は平年並やや多く、出穂時期は極早生品種、「コシヒカリ」ともほぼ平年並で推移している。</p> <p>（普通期稲） 分けつ期、時期：並、生育：並 ・田植えはほぼ終了し、順調に生育しているが、一部で移植後も雷いもちの影響を受けている場所が見られる。</p> <p>(高知県病害虫防除所 7月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月27日03時、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、こま葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月12日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>
福 岡	<p>【6月15日現在】</p> <p>【早期水稲】（夢つくし、コシヒカリ） ・田植え後、多雨の影響により、草丈は平年よりやや高く、茎数は少ない。ウナカ類の発生は確認されていない。 ・4月下旬植えの出穂期は7月4旬頃で、平年よりやや遅くなる見込み。</p> <p>【普通期水稲】（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど） ・苗の生育は概ね順調。育苗期の不安定な天候により、一部で軟弱苗や病気の発生が見られる。 ・現在、夏収穫後の畑でも田植えが始まり、平地地の「夢つくし」は6月上旬中、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。</p> <p>(福岡県農林業総合試験場 6月22日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「元気つくし」が増加傾向となっている。県では「実りつくし」の拡大を推奨している。</p>
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は7月28日頃からかなりの高温。 (気象庁福岡管区気象台)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの森」はリーディング品種として取組みが徐々に拡大している。</p>
宮 崎	<p>【作物の生育状況（6月中旬）】</p> <p>・早期水稲は穂ばらみ期、普通期水稲は移植前後。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月30日)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「つづほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>
鹿 児 島		<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月22日～8月21日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 7月～9月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>九州南部地方は7月26日頃からかなりの高温。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「つづほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：調査及び地方自治体、関係機関等がホームページで公表している資料を本調査資料で取り組み。
 注2：生育状況等（栽培種等）の栽培資料については令和5年7月20日16時時点での取り組み。
 注3：更新情報は最新で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月6日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月6日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月6日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月6日)、
はれわたリヒックス〜7月14日時点の生育状況〜(農ナビ青森 <https://www.nounavi-aomori.jp/> 7月20日)、
令和5年度水稲生育定期調査結果No.4(岩手県農業研究センター 7月18日)、
令和5年度水稲の生育状況について(7月10日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 7月11日)、
令和5年稲作情報第5号(宮城県亘理農業改良普及センター 7月11日)、
仙台稲作情報2023(第5号)(宮城県仙台農業改良普及センター 7月11日)
令和5年度気仙沼・南三陸稲作情報第6号(宮城県気仙沼農業改良普及センター 7月12日)
令和5年度美里地区の稲作情報第6号(宮城県美里農業改良普及センター 7月11日)、
栗原の稲作通信令和5年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月12日)、
稲作情報(Vol.6)(宮城県石巻農業改良普及センター 7月11日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 7月20日閲覧)、
稲作だより第10号(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月11日)、
おいしい米づくり情報第10号(山形県庄内総合支庁農業技術普及課 7月12日)、
稲作だより第9号(西村山農業技術普及課 7月10日)、
西おきたまづくり情報No.9(西置賜農業技術普及課 7月11日)、
主要な農作物の生育情報令和5年度第4号(福島県農林水産部農業振興課 7月10日)、
農研連報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月11日)、
農研連報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 7月19日)、
水稲生育診断速報No.4(栃木県農政経営技術課 7月6日)、
水稲の生育と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第5号)(新潟県農林水産部 7月11日)、
岩船米づくり情報No.5(村上農業普及指導センター 7月12日)、
稲作速報No.5(新潟農業普及指導センター 7月10日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月29日)、
コシヒカリ生育情報第5号(魚沼農業普及指導センター 7月10日)、
稲作情報No.5(長岡農業普及指導センター 7月10日)、
南魚沼産コシヒカリ生育速報No.5(7月10日調査)(南魚沼農業普及指導センター 7月11日)、
コシヒカリ・こしひぶき生育速報No.5(6月20日)(上越農業普及指導センター 7月10日)、
令和5年度糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報No.5(糸魚川農業普及指導センター 7月10日)、
令和5年度稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月10日)、
十日町地域稲作生育速報(令和5年7月11日)(十日町農業普及指導センターほか 7月11日)、
TACS情報第8号(富山県 7月18日)、
令和5年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月14日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月19日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.3(滋賀県農業技術振興センター 7月13日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県農林水産部 7月5日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(岡山県 6月28日)、
水稲生育状況(令和5年7月10日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 7月12日)、
2023年度「ひめの魂」の生育状況(7月10日現在)(愛媛県農林水産研究所 7月13日)、
病害虫発生予察情報について 令和5年度病害虫発生予察6月月報(高知県病害虫防除所 7月4日)、
福岡県の主な農作物の生産状況(令和5年6月15日現在)(福岡県農林業総合試験場 6月22日)、
令和5年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月30日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月20日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月20日気象庁)
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月20日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月20日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月20日広島地方気象台)
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月20日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月20日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月20日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(6月20日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(6月20日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(6月20日気象庁)
北陸地方こう3か月の天候の見通し(6月20日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(6月20日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(6月20日広島地方気象台)
四国地方こう3か月の天候の見通し(6月20日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(6月20日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(6月20日鹿児島地方気象台)、

令和5年の梅雨入りと梅雨明け(速報値)(気象庁 7月20日更新)、
早期天候情報(7月20日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.370)について(気象庁 7月10日)、

「令和5年度病害虫発生予報第4号」(農林水産省 7月12日)、
令和5年度水稲の10a当たり平均収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)